

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 有心会 グループホーム茜雲
(ユニット名)	ユニットA
所在地 (県・市町村名)	南島原市有家町山川西寺ノ前1 - 2
記入者名 (管理者)	川畑 幸美
記入日	平成 20 年 12 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	「入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」を理念に掲げ、地域との付き合いを大切にしており、その人らしく暮らし続けて頂けるよう支援している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	管理者はケア会議やミーティング等で理念の実践に向けて取り組むよう職員と話し合い日々努力している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	月に一回広報誌を発行し、その中に理念を掲載し家族の方々に理解してもらえるよう努めている。また施設内にも、いつでも見れるよう広報誌を貼り出し地域の方々にも理解していただけるよう努めている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	商店街の中に施設があるので人通りも多く気軽に声を掛け合い挨拶を交わしている。また近くに保育園があり、散歩の途中気軽に立ち寄ってもらっている。		有家町の祭事である蔵巡りの、チンドン屋道中も今年は立ち寄って下さり利用者の皆さんとても喜ばれた。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域の一員として、市内清掃や祭事等の地域活動に参加している。施設での敬老会には、ご家族、地域の民生委員の方に参加していただき地元の方々と交流するよう努めている。		有家町文化祭が開かれ、芸能発表会、美術展覧会、盆栽展覧会に出かけ顔なじみの方もいらっしゃり一緒に楽しまれた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所の高齢者の方で、利用者の方と顔なじみになられ施設に立ち寄っていただきお互いに楽しい時間を過ごされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施することにより、日頃見過ごしがちになる点などを改めて考え、話し合うことにより、運営者、管理者、職員は共通の認識をし自ら改善するよい機会となっている。		外部評価でご意見を頂き、すぐ職員全員で話し合い取り入れる事ができた。さらに今年も評価を受ける事により原点に戻り質の向上、利用者の方に満足していただけるケアが出来よう職員皆で取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の民生委員、市の職員、家族の代表に参加していただき2ヶ月に1回事業者側からの報告はもとより、出席者の皆様より積極的な質問や話し合いを行い、サービスの向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南島原市役所有家支所市民課の担当者や島原地域広域市町村圏組合介護保険課の職員と連携を取り、サービスの質の向上を目指し、話し合い及び指導していただいている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会、勉強会など積極的に参加し必要な人には活用できるよう支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、虐待防止のため研修会、勉強会に参加している。職員全てがお互いに利用者に対し虐待が行われないよう話し合いをもち、常に注意を払い虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時書面により丁寧に説明を行い、疑問点や不安に思われる事など尋ね十分理解・納得されるまで説明を行っている。</p>	<p>利用者の状態変化により契約解除に至る場合は本人、家族、主治医と対応方針を相談している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用の言葉や態度からその思いを察し、話し合いをもち解決に向けて努力している。利用者の要望や意見を出してもらえる機会を作っている。またご意見箱を設置し書面でも行えるよう配慮している。</p>	<p>10時、3時には水分補給の時間をもうけ、利用者の皆さんが集まっておられる時など、できるだけ職員も一緒に加わり要望、意見を聞いている。また個別にお話を伺ったほうがよい方には、居室にて要望、意見を聞いている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、日頃の暮らしぶり、健康状態、職員の移動について報告している。お小遣いは確認してもらいサインをいただいている。</p>	<p>毎月面会に来れないご家族には必ず電話で報告している。また月に一回広報誌を発行しその中に入居者の状況を書き送付している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月一回の広報誌の中で、ご意見、ご要望など気軽に申しつけていただけるよう呼びかけを行っている。またご意見箱や苦情窓口、第三者委員を設置している。その他の窓口として、南島原市役所、介護保険課、社会福祉協議会などをあて、外部者に表せる機会を設け、運営に反映させるようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体ミーティングで職員の意見、要望を聞くとともに、月に一回定期的に会議を開き運営に反映させるようにしている。また日頃からコミュニケーションを計るよう心がけている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況、家族の要望などに柔軟に対応する為、人員の確保や時間帯の見直し、さらには勤務交代などの措置を取り、勤務の調整を行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が、馴染みの職員により支援が受けれるよう、各ユニットの職員を出来るだけ固定化している。また、異動や離職がやむ得ない場合は、利用者のダメージが少なくすむような対応、言葉掛けを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得の奨励や研修などを計画的に行っている。研修に参加した職員はミーティングや会議で報告をし、職員全員で共有している。また経験を多く積んだ職員が後輩の育成に努めている。	一人ひとりの介護に対する知識を高め、質のよい介護を実践できるよう、これからも研修に参加していく。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島ケア研究会に加入しており月に1回は必ず勉強会が行われ全職員進んで参加しており意見交換、交流を行い質の向上に向けて取り組んでいる。	ネットワークづくりについては、管理者が代表で行っており管理者を通じて各職員に流れるようになっている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体で親睦会を作り飲食会、送別会など年に数回行い、職員間の悩み解消、ストレス軽減の場として設けている。また施設内でも普段から悩みを打ち明けやすい環境づくりに心がけ十分話を聞くようにしており1～2ヶ月に1回飲食会を行っている。	行事が終わった後など反省会を兼ねた飲食会を行い親睦を深めている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者や職員個々の努力や実績、研修会などへの参加状況や勤務状況の把握に努め、向上心を持って働けるよう努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望時、必ずご本人に会って解らないことや不安なこと等、十分話を聞く機会を設け、納得されるまで話をし不安の解消に努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望時、ご家族に個々に困っていること、不安に思っていること、さらに要望などを聴く機会を設けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、必要としている支援を見極めるよう本人と家族に随時面談を行い、ケアプランを作成し介護に活かしている。また本人、家族の要望を聞き、他のサービス利用を含めた対応を支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の方に施設を見学に来ていただき、職員や他の利用者の方々と話をされることにより、安心してサービスを開始していただけるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から昔の例え話や旬の食材の美味しい食べ方、草木の名前や育て方など生活のあらゆる場面において教えていただき一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、本人の体調や精神面の変化をお話し、家族の方と協力して本人を支えていく関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所されている本人と家族の個々の思いを受け止め両者の思いが結びつくような働きかけを心掛け入所される以前より良い関係が築けるよう支援している。		時には利用者の代弁者になり思いを家族の方に伝え、よりよい関係が築けるよう支援している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚はもとより、その方の地域の方々や友人が気軽に訪問されている。また昔から利用している美容室があらわれる方はお連れし、一人ひとりの生活習慣を尊重している。		利用者さんが信仰されている教会があり希望があらわれる時はお連れしている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の一人ひとりの関係を把握し、個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、職員が調整役となってよりよい関係が保てるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も本人、家族との関係を断ち切ることなく、気軽に遊びに来てもらえるよう心がけている。また家族からの相談、助言等を行っている。		サービス利用終了後、関わりを必要とする利用者、家族はもとよりそれ以外の家族や関係者の方とお会いすると気軽に言葉をかけて下さり、今だ良い関係が築けている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を聞き利用者の求めに応ずるよう努めている。また意思疎通が困難な方には、表情等から意志をくみ取り、家族や関係者から情報を得て検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を把握するため、本人または家族から聞き取りを行い、これまでの生活の様子や幼少期から入所までどのような生活をしておられたか、これまでのサービス利用の経過などの把握に努めている。		バックグラウンドの用紙を備え記録している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解するとともに、小さな行動も見逃さないよう努め、心身の状態等を含め個人ファイルに記録を取り、これを現状に即し総合的に把握するよう努めている。		利用者からの小さな訴えでも毎日の申し送り時に職員で把握し理解に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、職員全員で意見交換を行い介護計画を検討している。また医師や理学療法士などの専門職からのアドバイスなどを総合し介護計画を作成している。		毎日のさりげない会話の中で利用者の思いを知り職員全体で話し合いを行っている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、期間内に必ず見直しを行い、見直し以前に対応変化が生じた場合は、本人、家族、医師、理学療法士などと話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		月に1回職員会議を開きモニタリングを行い記録を取ると共に現状に即した介護計画に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し、食事、排泄、日々の暮らしの様子を記録している。さらに特別な変化や病院受診などの際には別のノートに記録し職員間で話し合い、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。また個人別にふれあいノートを作り毎月の様子を記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業母体である病院と連携を取り、本人や家族の要望に答えるようにしている。通院や送迎はもとより必要に応じ柔軟に対応し個々の満足を高めるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の学生(有家小学校、有家中学校、西有家中学校、翔南高校)の受け入れを始め地域の保育園などお互いに協力を行い支援している。また、消防訓練や文化祭への参加など各機関と協力し、支援を行っている。		中学校、高校の生徒の皆さんには毎回、よさこいソーラン節や手品等披露して頂き利用者の方にも好評である。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人または家族から要請があった場合は、他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護については、南島原市社会福祉協議会有家支所にお願ひし協働している。今のところ地域包括支援センターとの協働は行ってない。		必要と思われる利用者の方が出てこられたときは地域包括支援センターと協力して利用できるよう支援していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけの医師と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。		池田循環器科内科と医療連携体制を取り、急変時、緊急時の対応を24時間体制で行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医等認知症に詳しい医師に定期的に受診し、その中で利用者の状況をお話し、職員が相談しながら治療を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	池田循環器科内科と医療連携体制を取っており、看護師と相談しながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。		池田循環器科内科の看護師と急変時はもとより、定期的に受診を行い看護職員と気軽に相談しながら支援を行っている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の方が入院された際には不安なく過ごして頂けるよう家族と協力している。また面会も頻繁に行くようにしている。早期退院については病院関係者と情報交換や相談をしながら連携を取っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「認知症対応型共同生活介護事業に於ける重度化した場合の指針」を定め、入所時、家族に説明を行っている。状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い医師、看護師、介護職員が連携し全員で方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合や終末期を迎えた場合は、かかりつけ医と連携を取り、チームとして支援する体制を取っている。また、今後の変化に備え、医療機関や家族、管理者、計画作成担当者、看護職員、介護職員が協働して行なう体制を取っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が別の居所へ移り住む際は、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、家族、本人に関わるケア関係者で話し合いや情報交換を行いダメージを最小限に食い止めるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人ひとりの人間性を認め尊敬や尊意を持って接している。また、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等を行っていない。</p>	<p>全ての職員から、個人情報保護に関する誓約書に署名、捺印をもらい、個人情報保護の徹底に努めている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりが思いや希望を表せるように常に言葉かけや話し合いするよう努め、その方の意思を尊敬し暮らせるよう支援している。また意志疎通が困難な方には、表情を見て意思をくみ取り支援している。</p>	<p>難聴の方にはゆっくり大きな声で接し、視覚障害の方には具体的にお話をし手で確認していただいている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>介護目標に「その人のペースに合わせてゆっくりと」を掲げ趣味や楽しみなどはもとより、その方なりの自由な過ごし方を叶えるよう支援している。</p>	<p>演歌が好きな方には聞く事により心が癒されるよう支援している。また個人でラジカセをお持ちの方は居室で聴かれています。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入所以前から着用されていたお洒落着を持ってきていただき、外出場所に合わせお洒落されている。理容については、定期的に来てもらいその方の希望される髪形にされている。</p>	<p>自分が行きたい美容室にお連れし、パーマや髪染め、カットをされている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの嗜好の聞きとりを行い、嫌いなものは他のものに変えるなどしている。また本人の力に合わせ刻み食やミキサー食などきめ細やかな対応を行っている。職員と入居者は一緒に楽しみながら食事をするようにしている。後片付けについては、出来る方には手伝っていただき一緒に行っている。</p>	<p>毎食後、食器拭きやお盆拭きなど役割を持ってお手伝いをして下さる。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの嗜好の聞きとりを行い、好きなものを出来るだけ自由に楽しんでもらえるよう努めている。お酒が好きな方は一緒に買い物に行き好みのお酒を買って楽しんでもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意、便意があられ応急的におむつを使用された方も症状が改善されるとすぐに綿の下着に戻しおむつが定着しないようにしている。おむつ、パットを使用され支援が必要な方には排泄記録表でチェックを行いトイレ誘導をする事で気持ちよく排泄ができるよう支援している。		排泄後は毎回清拭または陰洗を行い清潔に過ごしていただいている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前や午後、利用者の希望に合わせて週2～3回入浴支援を行っている。入浴を拒否される方には、言葉かけやチームプレイなどによって一人ひとりにあわせた支援を行っている。		一人ひとりの好みの温度に調整し心ゆくまで入浴を楽しんでいただいている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者のその時の体調や心身の状況に合わせて、こたつで横になったり、個室で休んだり自由に休息を取っていただいている。また就寝時不安で寝付けない方にはそばに付き添うなど配慮している。		日中個室で休まれている方は寝たきりを防ぐ為お茶や食事の時間皆さんと過ごして頂くよう心掛けている。また夜間帯は自力で寝帰りが出来ない方は時間を置いて体位交換を行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その方なりの力を発揮できるような場を設けるよう支援している。役割を持って張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		日常生活では、お花の手入れ、茶碗拭き、洗濯物たたみ、ゆず茶用のゆず切り、つるし柿作りなど皆さん喜んで作られゆず茶は毎日お茶の時間に飲まれている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は、小額のお金を管理され、安心されている。そのお金で買いたいものの希望があれば一緒に買い物に行っている。		お金が手持ちになると不安になられる方がおられ家族と連携をとり切れないう支援している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別に要求があった場合は、出来るだけ希望に沿うように心がけている。お天気がよい時は日光浴、散歩など季節を肌で感じてもらい心身の活性につながるよう支援している。		買い物はもちろんのこと、自宅に必要な物を取りに行かれたり、お墓参りなど外出の支援をしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段は行けないところへの外出は、計画をたて職員勤務の調整をしながら支援している。また家族の方には、面会に来られたとき日時と場所をお伝えして協力していただいている。		最低月に一回以上外出をされており、今月は雲仙に紅葉狩りに皆で出かけました。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者がいつでも利用できるよう2回線で子機3台設置している。いつでも子機を使用し居室でお話をさせていただいている。手紙は子供さんやお孫さんによく書かれる利用者がおられ職員と一緒に出しに行かれている。また返事が届くと、とても喜ばれている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	全職員「笑顔で挨拶」を心がけ来訪しやすい雰囲気作りを心がけている。居間にて他の利用者の方を交え面会されたり、居室にて面会されたり、また時間もご家族のいい時間帯にいつでも訪ねてきていただけるよう配慮している。		家族や来訪された方と普段からコミュニケーションを取るよう心がけている。また必要な方には職員も会話の中に関わるようにしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設に独自の身体拘束のマニュアルがあり、ケア会議や日々の申し送りなどで身体拘束が行われていないか点検し身体拘束を行わないケアを実現している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りを徹底し利用者の方が外出されそうな様子があれば、一緒について行くなど配慮して自由な暮らしができるよう支援している。居室や日中玄関に鍵をかけることはしていない。		今後も鍵をかけないケアを継続していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアーにいる職員が本人のプライバシーを損なわないように守りを中心とした介助を行っている。夜間は数時間ごとに利用者の様子を確認し起きられたらすぐ対応できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の心身状態を把握し、安全が確認できる方には裁縫箱など自分で管理していただいている。刃物など危険な物品については事情を説明し施設でお預かりしナイフなどは台所で使用していただいている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は、研修会などに積極的に参加し、知識を深めている。万が一事故が発生した場合は必ず職員会議を開き、原因を追究し再発防止に努めている。		緊急時の対応、事故発生時の対応マニュアルを独自に作成している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防本部の行なう救命講習会へも毎年参加し、緊急時の対応、事故発生時の対応マニュアルを備え、緊急事態に備えている。また講習会で習得したこと(実技も含む)を全職員に周知徹底し対応できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上の消防訓練の際、日中、夜間を想定した避難訓練を消防署の指導のもと行っている。また施設が商店街の中にあり地域の方には日頃から協力が得られるような体制を確保している。		11月27日には地震、火災による避難訓練を消防署職員、消防団員、市役所職員立会いの下行い、昨年の外部評価でご指導がありました、緊急時持ち出し品、緊急時持ち出し書類も活用できました。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人一人に起こりうるリスクに対して職員は、把握しておりケア会議や申し送りなどを通じて常にリスクに対する対応策を考えている。また家族に対しては、面会時などに常に現在の状況話し、リスクについて説明をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタル測定を行い、情報を共有している。また体温、血圧に少しでも異常が見られた場合、特に注意して再検を行ない、体調の変化や異変の発見に努めている。		万が一、体調不良に気付いた際は、管理者もしくはその日の責任者に報告し池田循環器科内科と連携をとり対応している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の服薬されている薬の説明書があり、職員が把握し、理解できるようにしている。薬は、毎回職員が利用者に手渡し、確実に服薬してもらうようにしている。また薬の処方や用量が変更された時の対応や、利用者の状態変化の確認に努めている。		薬に明記してある氏名、日付等声に出して読み上げ周りの職員にも解るようお互い確認しあいながら利用者に手渡し確実に服用していただいている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事に関しては、野菜中心の献立を立てており、また毎日定時に水分補給を行なっている。日中、散歩やレクリエーション、家事活動など体を動かす機会を作り、自然排便ができるように取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人の口腔状態や力に合わせ全介助、一部介助、言葉かけ、見守りを個別に口腔ケアを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れたメニューを提供し、随時メニューの見直しを行い栄養バランスと入居者の好みに合わせた献立を提供している。水分補給については、毎食後に限らず、10時、15時の決められた時間に補給している。さらに必要な場合は個別に補給している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設で感染マニュアルを作成し、予防や対応の取り決めがあり実行している。また随時研修会などに参加し、知識を深め予防に努めている。		利用者、職員全員がインフルエンザの予防接種を受けている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを作成し、食中毒予防を実行している。また食材は、当日分を各業者に毎日納入してもらい、新鮮で安全な食材使用に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	木造平屋作りで開放的な建物になっており、玄関には草花を植えたプランタなどを置き、お客様を迎えている。また車椅子利用や下肢機能が低下している方にも安心なバリアフリーとなっている。		天気がよい日には、玄関先にお茶を飲んだり出来るスペースがあり、近隣の人達に気軽に言葉をかけたり、遊びに来てもらったりしている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が木材を多く使用した和風作りで落ち着いた雰囲気があり、居間には掘りごたつや座布団があり、家庭的でくつろげるよう工夫してある。また、季節感を楽しんでいただくために、行事ごとの飾り付けを行い、居心地良く過ごせるようにしている。		茶碗を洗う音、ご飯が炊けるにおい、心地よい音楽、ゆず湯や菖蒲湯など五感や季節感を取り入れている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂がひと続きになっており、気の合った利用者同士、居間でテレビを観たり、またベランダに椅子を設置しており、各々くつろいでいただけるスペースがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に持ち込みの制限がない事をお話し、入所以前からの使い慣れた家具やラジカセ、湯呑みなどを使っただき利用者の心地よさに配慮している。また家族の写真も利用者が見えやすい場所に飾られている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者のその日の健康状態や天候に応じて、毎日温度調節を行い、換気も利用者の状況に応じてこまめに行っている。またトイレ使用后、臭気がこもらぬよう入居者一人ひとりの行動を把握し、適時掃除などを行い対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の廊下には手すりが設置しており、車椅子でも可能なトイレには可動式の手すりを取り付け、身体状況にあわせ使用できるよう工夫している。また利用者の好みや身体状況にあわせ置の部屋やポータブルトイレの使用をしてもらい、安全で自立した生活が送れるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を起こしがちな利用者には、言葉かけをこまめに行うことにより安心かつ自立して暮らせるよう支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭では、プランターで草花や野菜を栽培していただき、生育の鑑賞や収穫を楽しんでもらえるよう支援している。		今年も干し柿作りをおこない、食べごろになるのを楽しみにされてます。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「入居者の個性を尊重し、QOL（生活の質）を高めることにより、生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」ことを理念とし、「その人のペースに合わせてゆっくりと」を介護目標に掲げ職員一同実践に向けて最善を尽くしております。また母体が医療法人であり、利用者一人ひとりの医療面での精神的不安も軽減され効果的な個人ケアを行っています。入居者すべての方に毎日笑顔で過ごして頂けるよう自己決定を尊重し、自立支援に向けた取り組みを行えるよう日々皆で考え、取り組んでいるグループホームです。